

出張目的	エコトピア亀岡の埋め立ての現状把握			
出張先	エコトピア亀岡			
出張経過	出発地・日時	市庁舎 7月28日 午後1時30分	到着地・日時	エコトピア亀岡 7月28日 午後1時50分
	帰着日時	7月28日 午後3時20分	滞在日数	
	経路及び利用交通機関	市庁舎 エコトピア亀岡 市庁舎 公用車		
用務経過				
エコトピア亀岡の埋め立ての現状を把握するため、現地視察を行いました。				
参加者：環境厚生常任委員会				
明田委員長、馬場副委員長、酒井委員、奥村委員、富谷委員、平本委員、小松委員				
事務局随員 鈴木係長、池永				
計 9人				
その他	別紙のとおり			
添付書類	説明資料等（添付のとおり）			
備考	1．その他欄には、意見、感想等を記載すること（必要に応じ適宜、別紙の添付も可）。 2．送付書類は項目別に記載の上、本復命書に綴込み提出のこと。 但し、事務処理上差支えがあれば提示するにとどめてよい。			

視 察 概 要

平成27年7月28日(火曜日)午後1時30分～午後3時20分

エコトピア亀岡の現地視察

説明員

中川環境市民部長、辻村環境クリーン推進課長、中澤埋立施設係長、
野々口埋立施設係主任

[部長挨拶]

- ・平成19年から稼働しており、埋め立て期間は15年、埋め立て容量は77920m³の計画である。
- ・埋め立て期間15年、当時の容量の概算11万m³で、地元と使用に関する協定を結んでいる。その後、具体的な計画を作り、亀岡市として府に届け出ている数字は77920m³である。
- ・昨年始まったプラスチック製容器包装リサイクルのおかげで、重量にして27%埋め立てゴミは減量している。ただ重量と容量は異なるので、1年が経って実際埋め立てた容量を測定し、その段階で改めて今後の残容量に対する使用のしかた・計画を算定していきたい。



～ 13 : 56

[DVD視聴]



～ 14 : 06

[環境クリーン推進課長説明]

・本年4月時点に実測した結果、計画埋め立て量に対して、おおむね20カ月の延命になっている。

[質疑]

< 奥村委員 >

11万 m^3 と77920 m^3 の違いは。

< 環境市民部長 >

11万 m^3 は、地元と協議する際の15年の埋め立て容量の概算である。設計上は77920 m^3 である。

< 奥村委員 >

77920 m^3 の設計があったのに11万 m^3 で協議したのか。

< 環境市民部長 >

協議後に設計したものである。

< 奥村委員 >

埋立記録表の断面図の左側に擁壁も何もないが、どういうことか。

< 環境市民部長 >

等高線は入っているが、最上段は真ん中あたりまでしか埋め立てをしない。断面図の左側の方が地形的に低いので、それ以上に積み上げることはない。77920 m^3 の線は記載されていないが、真ん中あたりまでになる。

< 馬場副委員長 >

サンドイッチ工法とセル工法はどう違うのか。土砂はどこから取ってくるのか。

< 環境クリーン推進課長 >

覆土はストックヤード裏の山から取り、埋立ごみの上に約50センチ敷き詰めて飛散防止を図っている。

< 埋立施設係主任 >

セル工法は覆土を上だけでなく側面にもしていくものである。セル工法とサンドイッチ工法を状況に応じて併用していく形になっている。

< 酒井委員 >

11万 m^3 から77920 m^3 に減らす理由は、地元の声があったのか。

< 環境市民部長 >

当時の年間埋立量を鑑み、完成以後15年間の埋め立てで11万 m^3 を想定していたということである。11万 m^3 はだめだという話があったわけではない。

< 酒井委員 >

できるだけ大きな容量で作っておくのが良いと考えるが、年数から計算しての容量だったのか。また、パンフレットは11万 m^3 のままであるが、事業費は変わらないのか。

< 環境市民部長 >

事業費は変わらない。遮水シートの耐用年数やエコトピア亀岡の施工前の地形を考える中で、最も効果的な方法で作るということで現在の設計になった。

< 酒井委員 >

遮水シートが破れているということが検知された場合の対策はどのようになるのか。

<環境市民部長>

今までそのようなことはないが、万が一破れた場合、当該地を重機で掘って補修することになる。その後、どのようなものが漏れたか、水質検査等を行うことになる。

<酒井委員>

埋め立てを15年でやめても漏水の管理などは引き続き行っていくことになる。延命した場合、地元が問題だと思われることは、運搬車両が行き来することなのか。

<環境クリーン推進課長>

施設建設の協議の中で15年11万 m^3 という年限が設定されたものである。車が通る、通らないということではない。

<酒井委員>

15年を過ぎて明らかに困ることがあるわけではないということか。

<環境クリーン推進課長>

そうである。

<環境市民部長>

以前、ダンプの扉の音について住民の方から改善の要望を受けたことはあったが、埋め立て処理そのものについて苦情は聞いていない。

<奥村委員>

擁壁を作ったら、最大限どのくらいいけるのか。

<環境市民部長>

断面図では、左側に擁壁を積み上げたらおよそ11万 m^3 になる。

<奥村委員>

シートを張ればもっと積み上げられる。水の処理能力などを考え、最大限どのくらいいけるのか研究すべきである。

<環境市民部長>

設計上は、ここまで積むという前提での設計である。積んでいくとシートに圧力がかかるので、物理的な限界はある。

~ 14 : 22

[施設見学を通じて、各委員より随時質疑]





~ 15 : 00

平成27年度亀岡市議会環境厚生常任委員会視察

平成27年7月28日(火)

午後1時50分～

エコトピア亀岡2階 会議室

次 第

1. 挨拶

2. 施設概要等説明

1) DVDの視聴(エコトピア亀岡)

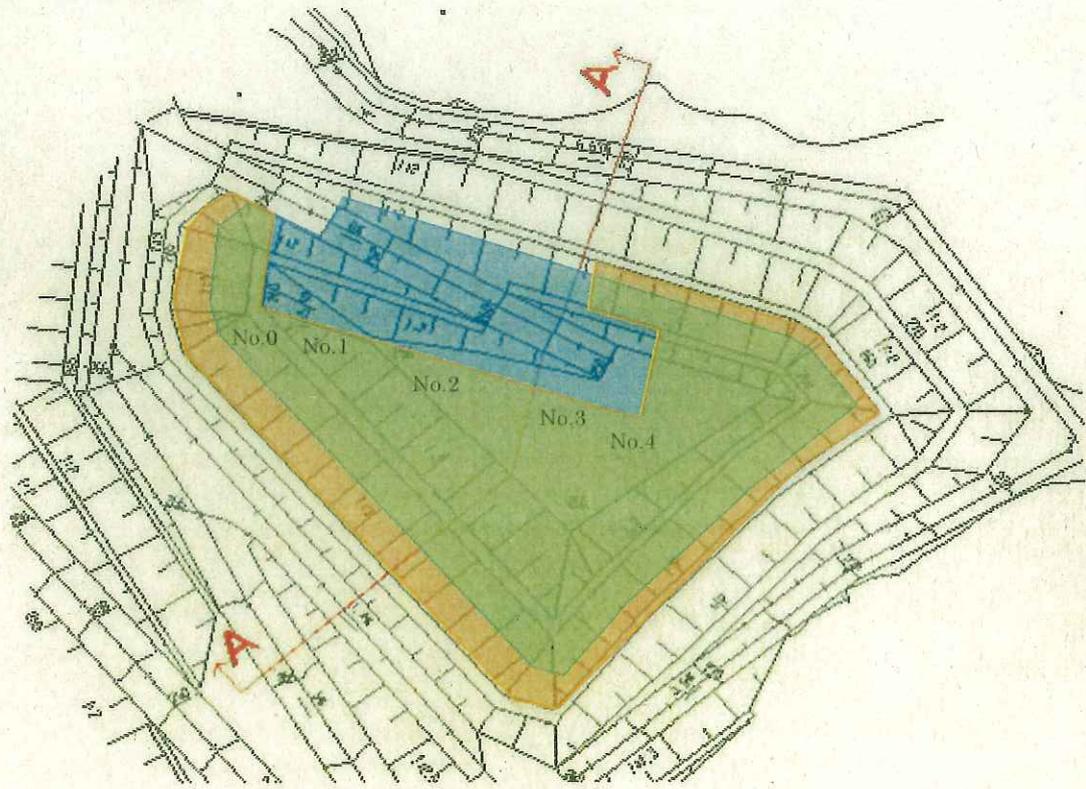
3. 場内施設見学

1) 埋立処分場の現状

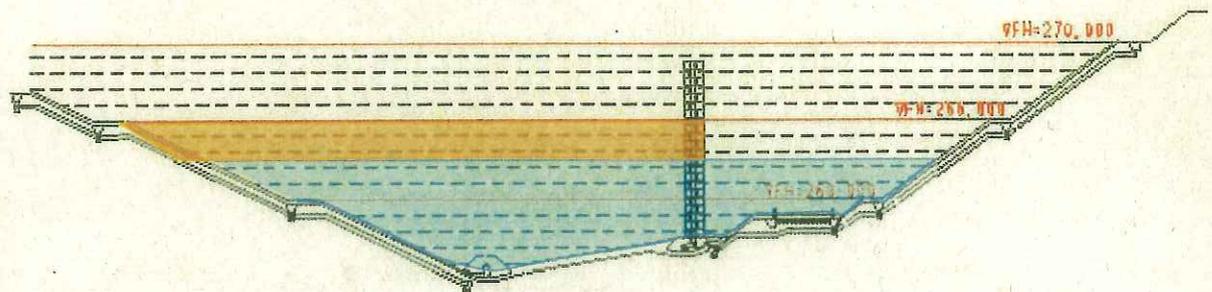
2) 資源化等について

埋立記録表		測定日	平成 27 年 4 月 30 日 木曜日
		測定者	環境市民部環境クリーン推進課
施設名	エコトピア亀岡	天候	晴れ

埋立て位置平面図



埋立位置断面図



備考 ※埋立量

1. G. L259.00~260.00 $V = 3,300 \text{ m}^3$ 約 8 ヶ月 (平成 19 年 4 月~平成 20 年 6 月)
 2. G. L260.00~265.00 $V = 32,750 \text{ m}^3$ 約 6 年 4 ヶ月 (平成 20 年 7 月~)
 3. G. L265.00~270.00 $V = 41,870 \text{ m}^3$ 約 8 ヲ年
- 合 計 $77,920 \text{ m}^3$ 約 15 ヶ年

～分別拡大によるごみ減量効果～

平成26年10月から亀岡市全域でプラスチック製容器包装とペットボトルの分別収集が開始され約半年が経過したので、前年度同時期との家庭系ごみ収集量を比較してみました。みなさんのご協力のおかげで燃やすごみ・埋立てごみともに、かなりの減量効果が出ています。

また、下の円グラフは、埋立てごみの中に含まれているものの割合を調査し、分別拡大前後の組成を比較したものです。分別拡大後には、プラスチック製容器包装とペットボトルの割合が大きく減少しており、新たな分別にも積極的にご協力いただいていることが分かりますね。

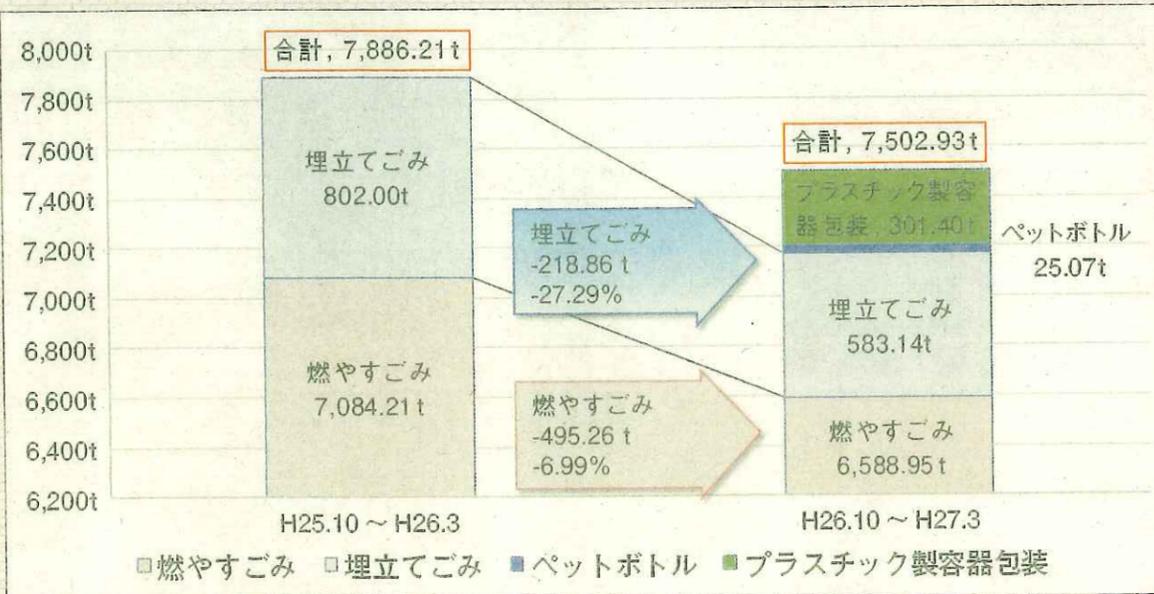


図1、平成25年10月～26年3月と平成26年10月～27年3月における6カ月間の家庭系ごみ収集量の比較

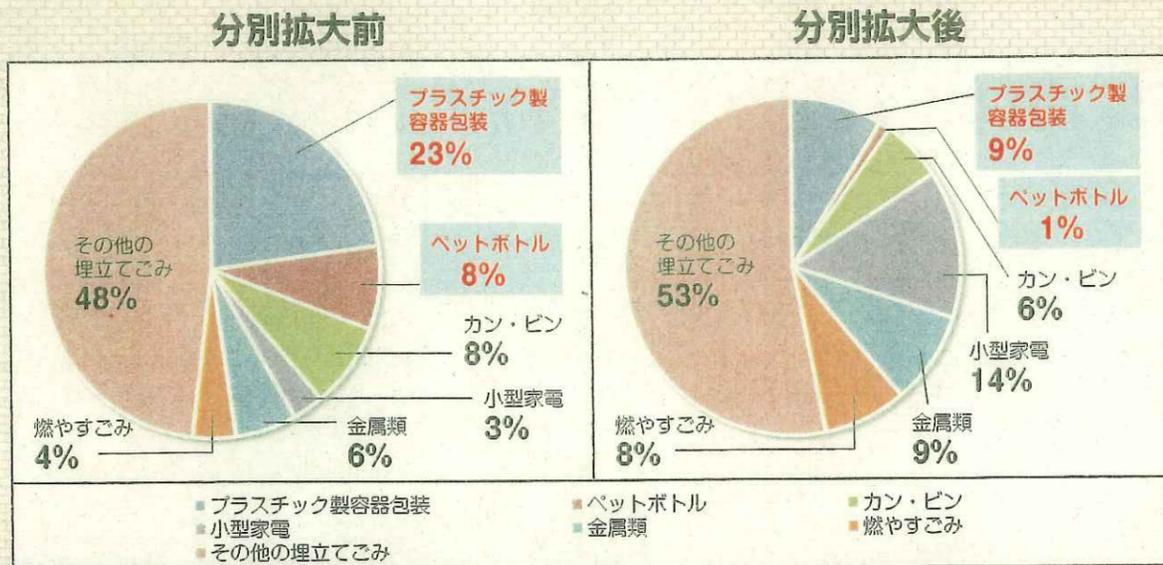


図2、埋立てごみの組成分析における分別拡大前後の比較 ((公財) 亀岡市環境事業公社調べ)

～プラスチック製容器包装が再生事業者に引き渡されるまで～



みなさんに分別していただいたプラスチック製容器包装は、様々なプラスチック製品や化学原料などにリサイクルされますが、そのままでは再生事業者(リサイクルを行う業者)に引き取ってもらうことができません。ここでは、プラスチック製容器包装を再生事業者に引き渡すまでの中間処理の流れを確認してみましょう!



1 亀岡市内で収集されたプラスチック製容器包装は、東別院町にある埋立処分施設エコトピア亀岡のストックヤードに一時保管されます。



2 その後、中間処理を委託している業者に引き渡され、中間処理作業(選別・圧縮・梱包)を行う工場に運び込まれます。



3 工場に運び込まれたプラスチック製容器包装はコンベアにかけられ、破袋機と呼ばれる機械で袋を破いた後、人の手によって素早く選別を行い、不適切なものを取り除きます。



4 手選別された後は、圧縮梱包機で約1立方メートルの大きさに押し固めます。この圧縮梱包したものを「ペール」と呼び、ペール1個の重さは約250kgにもなるそうです。

分別収集されたプラスチック製容器包装はこれらの中間処理を経て、ペールにした状態で再生事業者へと引き渡され、リサイクルされます。

